

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	暑熱ストレス軽減化に対応した肥育豚の肉質改善技術の開発	
研究期間	7年度 ～ 9年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.6
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.8
	総合評点	4.0
[コメント] 近年の気候変動にによると思われる猛暑日の増加に対応することは喫緊の課題であり、研究の必要性は非常に高い。 これまで暑熱対応の研究は主に施設面の研究であったが、飼料添加物を用いて対応することについては新規性が高いと考える。 研究目標・研究計画についても妥当性はあるが、暑熱ストレス軽減と肉質改善が両立できるのか、また本試験で開発された良肉質は夏場のみの生産となるのかなど、課題として不明瞭な点があるので、そのあたりについて中間報告では明示していただきたい。 研究予算・研究体制についても妥当性が高い。		

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	鶏の高位生産を目指した飼育ストレス低減化技術の開発	
研究期間	7年度 ～ 9年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	3.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.6
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.6
	総合評点	3.8
[コメント] 近年のAWの機運が高まっていることを思料すると、AW対策は喫緊の課題であり、研究の必要性は非常に高い。 また、低コストでAW対応が可能となる群飼ケージでの最適羽数の検討、および肉用鶏へのFPD発生抑制の視点からのAW対応は国内では実施例がなく、新規性は高いと考える。 研究目標・研究計画についても妥当性はあるが、検討用資料の試験方法が具体的でないため、研究計画の妥当性について判断が困難であった。中間評価の際には、研究計画の妥当性を容易に判断可能な記載をお願いしたい。 研究予算・研究体制については妥当性が高い。 最後に鶏のAWは非常に重要案件であると考えているが、山梨県としてAW先進地域として進めていくことを考えているのであれば、課題終了後には採卵鶏の平飼についての研究開発など、よりチャレンジングな課題への対応も本進めていただきたい。		

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	マメ科飼料作物の安定栽培・調製技術の確立	
研究期間	7年度 ～ 9年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.6
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.8
	総合評点	3.8
[コメント] 近年の飼料高騰を受け、特に粗タンパク供給源であるマメ科牧草等の調達は喫緊の課題であり、研究の必要性は非常に高い。 研究内容については、北海道で実用化されている手法を山梨県へ適用する試験が主体となるため、新規性についてはさほど高くない。ただし、アルファルファのサイレージ変質向上技術に関しては新規性が高いと考える。 研究目標・研究計画についても無理のない計画であり、最終的に実証規模で検証するなど妥当性は高い。 研究予算・研究体制については、研究初期では小ロットの手法を用いる等、予算規模についても十分考えられており妥当性は高い。 本研究は無農薬栽培が基本となるため、将来的に有機畜産にも貢献する課題になると思います。良い結果を期待しています。		